

実際のところ、 パニック値対応はどうすればいいのか

forward

パニック値に関しては、これまで国内における定義、検査項目やその閾値、運用方法などについて一定の目安が存在していませんでした。こうした状況を受け、日本臨床検査医学会は2021年12月に『臨床検査「パニック値」運用に関する提言書』を公開しました。

しかしながら、実際の運用について悩まれている方は少なくないようで、編集部にもパニック値について「どのように決めればよいのでしょうか?」「見直す必要はあるのでしょうか?」「報告方法はどのようにしているのか知りたいです」といったお声をいただいております。そこで、今月号ではこうしたご要望にお応えすべく、本特集をお届けいたします。

1章では総論として国内におけるパニック値に対するこれまでの取り組みとその問題点、今後の方向性などについて、2章ではそれぞれのお立場からパニック値対応の実際についてご解説いただきます。皆様のご施設における運用の参考になれば嬉しく思います。 (編集部)

1. 総論—パニック値をめぐる現状と課題

2. パニック値対応の実際

- 1) 大規模病院の医師の立場から
 - 2) 大規模病院の検査室の立場から
 - 3) 中小規模病院の医師の立場から
 - 4) 検査センターの立場から
 - 5) 健診施設の立場から
 - 6) 在宅医療の立場から
-